

## 第6回奈良ESD連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤静男

- ◇実施日時 2019年9月12日(木) 19時～21時
- ◇会場 次世代教員養成センター
- ◇参加者 圓山・大西・阿彌(飛鳥小学校)、樋口(平城西)、西口(東登美ヶ丘)  
蔵前(真美ヶ丘第一)、三木(都跡)、島(郡山西)、小谷・中澤哲(平郡北)  
近藤(大阪府立環境農林水産研究所)、河野(附属小)  
長谷川(教職大学院)、山之内(学部生)  
森口・中澤(奈良教育大学) 計15名

### ◇内容

#### 1. あらためてESD

①ESDを指導する教員は自らが持続可能な社会づくりの担い手として行動化してほしい

#### ②ESD教材開発の方法

- ・ピンときたものを調査(7割うまくいけばいい)
- ・本当に教員が面白いと思ったものだけが子どもを揺さぶる「いい授業」になる。
- ・単元をデザインする(連携できる教育機関、ゲストティーチャーの選択)
- ・導入の工夫
- ・事前・事後のアンケートの実施により、子どもの変容を把握する(授業改善に)

#### ③教科学習におけるESD

- ・例えば教科書をもちいた学習をESD的に改善するには  
主な学習活動ごとに資質・能力、見方・考え方の表を作成して分析する  
単元を通して育つ価値観やSDGsとの関連も考える
- ・やりやすい教科からチャレンジする

#### 2. ユネスコスクール・ESD全国実践交流会 in 大牟田参加報告(圓山)



地域ぐるみのESD推進: 地域の根差した多様な人材育成  
九州地方ESD活動支援センターが核となったESDネットワーク  
企業(再春館)、ESD大学有識者会議、島嶼地域ESD交流会  
学校との連携は少ない(参加したい子だけが参加する形態)

- ・わざわざネットワーク化する意義  
問い合わせ先、紹介してもらえる、
- ・ネットワーク化した効果(実際の)  
ネットワークとしての活動・協力については不明

ICTの活用が利用できるかも。

- ・ネットワークを形成する方法  
参加者に共通の目標が必要  
核になる施設: 大学・行政・企業などが必要  
ネットワーク化するメリットを明らかにすることが必要

### 3. 授業構想の検討

(1) 小学6年生：平和学習 奈良に帰ってきた三角定規（蔵前）

夏休みの子どもの宿題のノートから教材になるものを発見した

毎日新聞に電話・塩路さん（記者） 協力要請

塩路さん自身もこの記事は取材継続中 子どもの前で話をしてもよい、山口さんも可かも。

南塾さんは、なぜ、遺品を集めているのかも気になる。

平和学習は修学旅行先である広島が中心になりがち。身近な地域（奈良）においても戦争被害があったことを子どもに考えてもらいたい。

広陵町の隣にはどんづるぼう（地下基地）が残されている。

広島の平和資料館の展示も遺品と遺族（エピソード）にスポットをあてたものになっている。

◇エピソードとは一人ひとり、核家族の記憶だ。（一般的な記録ではなく）

◇記憶に着目することは「思い」に焦点化し、感情にうったえるものだろう。

◇知識と感情 これまでの平和学習は知識（なぜ、戦争が始まったのか等）に偏重。知識も大事だが、「感情」に焦点化することも。平和な社会の構築には重要だろう。

◇ねらいをしぼる - 広島への修学旅行との関連

資料館の展示から遺品に目を向けさせ、三角定規につないでいけばいいのでは。

修学旅行・資料館→三角定規→奈良

◇三角定規から「記憶」に目を向けさせ、広島・資料館で共通点を見出し まとめは未定  
広島大仏を教材化し、奈良にもどる



(2) 小学6年生：たこ焼きと環境（山之内）

・大阪人は弥生時代からタコを食べていたようだ

・明石焼きからタコ焼きになった？ 明石のタコが使われていたのか？

・大阪のタコ焼きは戦後から 手っ取り早くはじめられる

・身近なたこ焼きと環境

タコの漁獲量が減少 タコは環境に左右されやすい生き物

・大阪のタコ焼きのタコはモーリタニア、モロッコからの輸入

・外国産のタコにもものを「大阪名物」と言ってよいのか

・自分たちのライフスタイルがタコ・環境問題につながっていることに気づかせたい

・自分たちにできることをどのように考えていけばいいのだろう。

◇切実感をもたせるのにいいネタ（タコ焼きパーティーが授業をスタート）

◇世界的なタコの漁獲減少は、日本が原因

◇5年生の社会科で

◇セネガルでは自国で食べないのに日本のために採っている

◇函館のいかめしのイカもニュージーランド産、マス寿司のマスもフィンランド産、自分たちの食べているものをクリティカルに見直すきっかけになる。・日本の漁業の常識をひっくり返す。

◇食文化の多様性に発展できる。タコを食べる日本文化。



◇タコ焼きから見た生物多様性（大阪府立大・石井先生） → 生物から環境学習へ



(3) 3年生社会「奈良筆」(三木)

つくる責任つかう責任に着目、そして「のこす責任」へ

- ・つくる側とつかう側の視点から考えることで、多面的に考える力を養うことができる
- ・すべて手作業 複数の動物の毛を混ぜ合わせる技法
- ・大量生産・大量消費：販売者側の利益と使用者側のコスト削減のみ 環境の非持続可能性
- ・地元産のものを使うことが、環境・経済・文化の全側面の持続可能性につながっている
- ・ねだんの違いはなぜ？ → ねだんを決めるものは？  
使う動物の毛の違い 職人の手間のかけかたの違い
- ・生産者と消費者のつながり 相互関係
- ・良い筆を使うのはなぜ？ 薬師寺で使う筆 使う人の筆への思い
- ・筆で書いたものは何百年も残る 思いを残していく — 東塔の復元
- ・大量生産品を使うとどういうことが起こるのか⇔良いものを適正な価格で購入する意味

◇良いものを長く使うことの意味

◇職人さんの思いに気づかせる

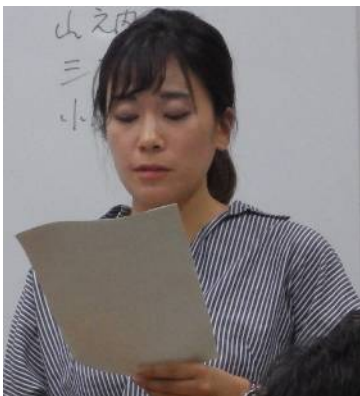
◇奈良筆の生産量の変遷からこの先のことを考えさせる

◇いい筆を使うことに意味（自分だけでなく、みんながいい筆を使う意味）

文化・環境・地元経済へのいい影響

◇システムとして考えさせる、それによって考えをひっくり返すことは重要

(4) 小学1年生：アフリカまでイッテQ！（小谷）



- ・ナイジェリアにルーツのある児童
- ・ALTの先生がウガンダ出身
- ・セネガルで小学校教師をしているしている方をゲストティーチャーに
- ・自分と途上国の人を良く知らずに比べると、「かわいそうな人・貧しい人」と捉えてしまう子がいるかもしれない。言葉や文化が違っても自分たちを同じ「思い」「心」をもった人たちであることを理解させたい。

◇1年生に理解させるまでは難しいのでは 気づかせる

◇国際問題に出会ったときに～ は課題としては大きすぎるのでは

◇家の人に「こんな遊びをしたよ」でもいいのでは

◇日本の遊びを伝えようが唐突なのは。ALTの先生が9月に帰られる。その後、交流



次回、第7回奈良ESD連続セミナーは、10月3日（木）19時～開催します。

現在、先進地視察希望者は次の通りです。

10. 19 江東区立八名川小学校 島先生

11. 30 ユネスコスクール全国大会（福山市立大学）  
大西先生、三木先生、中澤哲先生、河野先生

12. 20-21 ESD全国フォーラム（東京オリセン） 圓山先生、河野先生

また、12月26日・27日のコンソーシアム実践交流会での実践発表者を募集しています。  
奈良市教員の発表枠は4枠あります（大西先生・河野先生以外に）。